

2016年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 IR・広報室担当
北島 一明

2015年11月5日

2016年3月期上期決算概要についてご説明いたします。

決算総括：売上・営業利益ともに二桁伸長

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	2,333	2,592	+11%	+5%
粗利益	1,229 (52.7%)	1,394 (53.8%)	+13%	+8%
一般管理費	763 (32.8%)	844 (32.6%)	+10%	+3%
開発費	136 (5.8%)	159 (6.1%)	+17%	+8%
営業利益	330 (14.1%)	391 (15.1%)	+19%	+20%
(のれん等償却除く)	413 (17.7%)	493 (19.0%)	+19%	+16%
経常利益	340 (14.6%)	358 (13.8%)	+ 5%	
純利益	219 (9.4%)	270 (10.4%)	+23%	

期中平均レート	US\$	103円	122円
	EUR	139円	135円

- 売上 : 全カンパニーで好調維持。北米中心に海外カテーテル、ニューロが大きく牽引
- 営業利益 : 売上拡大に伴う粗利益の増加が販管費の増加を上回る
- 経常利益 : 前年同期の為替差益(25億)に対し、今年度は差損(24億)
- 純利益 : 幡ヶ谷(東京都渋谷区)の土地売却。税制改正による法人税負担率の減少



2/19

上期決算の総括です。

第1四半期に引き続き好調を維持し、売上高、営業利益ともに前年同期比で二桁伸長となりました。全カンパニーで売上が好調に推移し、中でも北米を中心に海外でカテーテルやニューロバスキュラー事業が大きく牽引しました。

営業利益は、売上の拡大による粗利益の増加に加え、販管費を抑え気味に運用したこともあり、前年同期比19%増となりました。

当上期の売上高、粗利益、営業利益の前年同期比伸率は、為替レートの影響を除いた場合も含め、第1四半期とほぼ同水準となりました。

経常利益は、前年同期比5%増となりました。営業利益と比べて伸長率が小幅となっていますが、この要因は為替差損によるものです。前年同期は為替差益が25億円発生しましたが、当上期は為替差損が24億円で、前年同期比で50億円程マイナスに効いています。

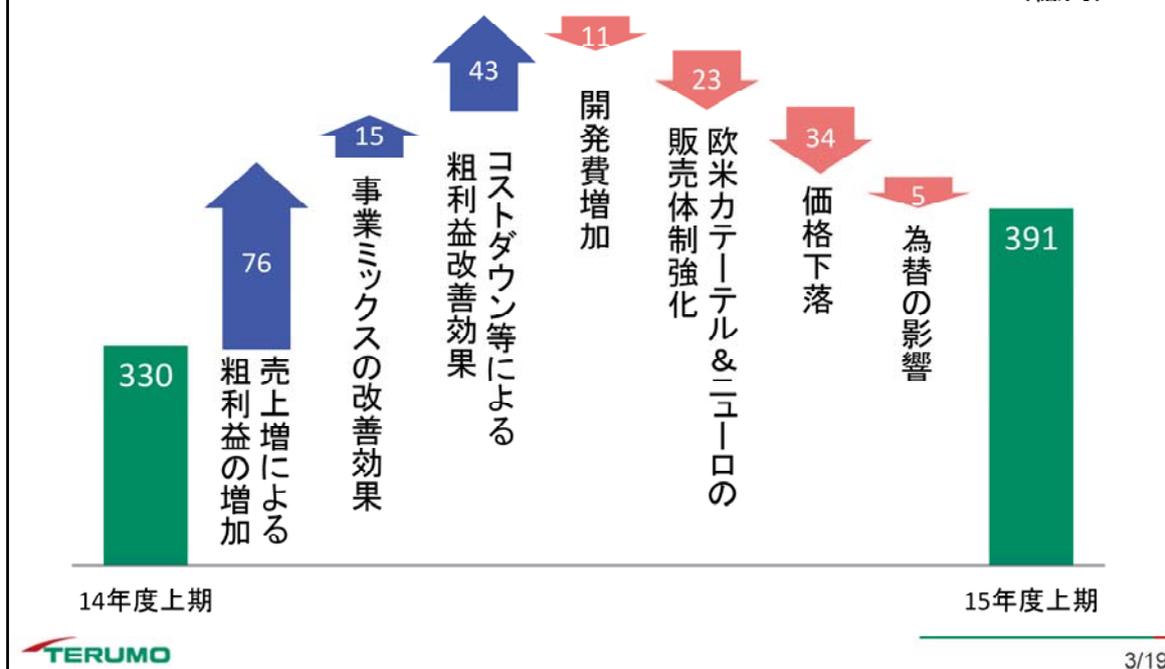
純利益は、幡ヶ谷の土地売却益44億円等を計上した結果、前年同期比23%増となりました。

9月に上期および通期の業績予想を上方修正しましたが、上期の実績は、修正後の予想値に対し、売上高で42億円、営業利益で21億円上回りました。経常利益、純利益は、ほぼ予想通りでした。売上高、営業利益、経常利益、純利益のいずれも、上期の業績として過去最高となりました。

上期の業績が好調に推移した事を受けて、本日、配当予想を修正いたしました。上期および期末配当金を、当初の予想に対し1株当たりそれぞれ3円増額し19円といたしました。その結果、年間配当金は、当初の予想に対し、6円増額の38円を予定しています。

営業利益増減分析

(億円)

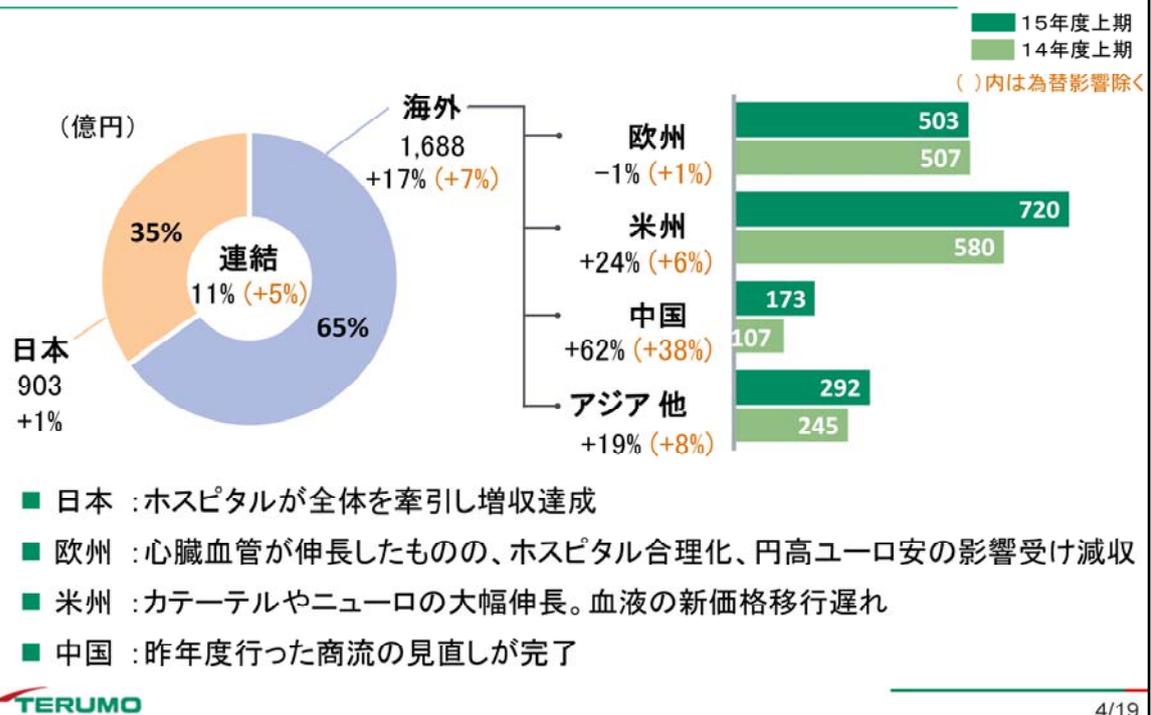


営業利益の増減分析です。

上期の営業利益は、前年同期の330億円に対し、61億円増の391億円となりました。最大のプラス要因は、売上増による粗利益の増加76億円です。加えて、事業ミックスの改善効果、コストダウン等による粗利益改善も寄与しました。

一方、マイナス要因としては、開発費の増加、欧米のカテーテルおよびニューロバスキュラー事業の販売体制強化、価格下落および為替の影響です。為替の影響については、第1四半期ではプラスでしたが、上期ではマイナスとなりました。後ほど詳しくご説明いたします。

地域別売上高

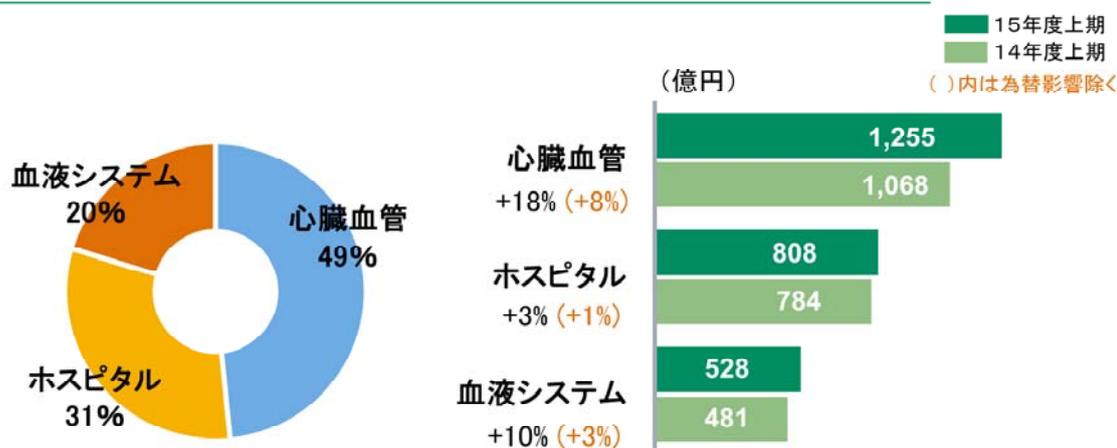


地域別の売上構成比は、第1四半期とほとんど変わっていません。

日本は、ホスピタルカンパニーが牽引し、前年同期比1%増となりました。

海外は、前年同期比17%増と二桁の増収となりました。欧州を除く米州、中国、アジア他で大きく売上が伸びました。欧州の減収は、ホスピタル事業の合理化による売上減と円高ユーロ安が主な要因ですが、為替の影響を除くと増収でした。

カンパニー別売上高



- 全カンパニーにおいて、為替の影響を除いても増収を維持
- 心臓血管および血液システムにおいて、海外が牽引し二桁伸長



5/19

次に、カンパニー別の売上高です。

心臓血管カンパニーが前年同期比18%増、血液システムカンパニーが10%増と二桁の増収となりました。為替の影響を除いても、全カンパニーで増収となりました。

売上構成比は、心臓血管カンパニー49%、ホスピタルカンパニー31%、血液システムカンパニー20%で、第1四半期と同じです。

心臓血管カンパニー：海外が牽引し、二桁の増収増益を達成

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	1,068	1,255	+18%	+8%
事業利益(率)	215 (20%)	293 (23%)	+36%	+21%

<売上面>

- 北米を中心に海外カテーテルやニューロの売上伸長 + 125億
- 中国での商流の見直し完了。顧客カバー率の拡大 + 53億
- 欧亜で「Ultimaster」(新DES)が順調に拡大。国内でも製造販売承認を取得

<利益面>

- 海外カテーテルおよびニューロの売上拡大による利益増と
ポートフォリオミックスの改善



6/19

続いて、カンパニー毎に詳しくご説明します。

心臓血管カンパニーの売上高は、北米を中心にカテーテル、ニューロバスキュラー事業の売上が伸長し、前年同期比18%増となりました。

中国は昨年度、商流の見直しで苦戦しましたが、見直しが完了したこともあり、当上期はこれまでの20%超の伸長率を上回る増収となり、前年同期比53億円増となりました。

Ultimasterについては、昨年度は欧州およびアジア、中南米で販売を開始するなど着実に販売地域を拡大し、売上も順調に推移しています。今年度は日本でも製造販売承認を取得し、10月より販売を開始しました。出足は好調に推移しています。

特に利益率の高い製品の売上の伸びが寄与し、事業利益は大幅な増益となりました。事業利益率も前年同期の20%から23%へと大きく改善しました。

ホスピタルカンパニー: コスト改善活動により収益性は回復

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	784	808	+3%	+1%
事業利益(率)	96 (12%)	117 (15%)	+22%	+25%

<売上面>

- 日本: 腹膜透析や疼痛緩和を中心にD&Dが拡大 + 14億
- 日本: 回転品である基盤医療器やDMの回復 + 7億
- 欧米: ポートフォリオ再編の取り組み - 12億

<利益面>

- 国内外の工場における継続的なコスト改善 + 8億



7/19

ホスピタルカンパニーは、売上高が前年同期比3%増、事業利益が22%増となりました。事業利益率も、前年同期の12%から15%へと回復しました。

利益率の高いD&D(ドラッグ & デバイス)事業や、DM(糖尿病)関連の売上高が伸びていることありますが、国内外の工場における地道なコスト改善活動が収益性の改善に寄与しています。その結果、事業利益率は本来あるべき水準へと回復してきました。

血液システムカンパニー：新興国、アフェレシス治療が継続伸長

(億円)

	14年度上期	15年度上期	増減率	為替除く
売上高	481	528	+10%	+3%
事業利益(率)	93 (19%)	100 (19%)	+8%	+16%

<売上面>

- アフェレシス治療や細胞処理システムが継続成長 +27億
- 新興国中心に成分採血が伸長 +12億

<利益面>

- 米・血液センターで新価格移行のずれ込み(長期契約による物量増を交渉)
- 米国生産・欧州販売製品での対ドル・ユーロ安によるマイナス影響



8/19

血液システムカンパニーでは、引き続きアフェレシス治療や細胞処理システムの売上が大きく伸びています。また、新興国を中心に成分採血システムの売上が伸長しました。

第2四半期より、米国の血液センター向けの価格下落の影響が出てきており、事業利益率は第1四半期の21%に対し、第2四半期は17%となりました。

ただし、第1四半期にご説明しました通り、新価格への移行がずれ込んでおり、期初の想定よりも影響額が少ない状況で推移しています。価格を下げる代わりに、長期で価格を維持し、かつ販売量を増やす交渉を行っています。当社にとっては早く妥結する事にメリットはありませんので、引き続き交渉を続けていきます。

Q2 主なトピックス

全社

- 約110億円の自社株買いの実施(株式の持ち合い解消)
- 社員の健康増進に取り組む企業14社で「KENKO企業会」を設立

事業

- ヒト(自己)骨格筋由来細胞シート「ハートシート」の国内製造販売承認を取得(9月18日)
- 薬剤溶出型ステント「Ultimaster」の国内製造販売承認を取得(8月10日)
- カネカ社との共同開発品、末梢血管用PTAバルーンが米国で承認取得
- カテーテル・がん治療分野の蘭ベンチャーへ投資
- 皮内投与型デバイス(薬剤を除く)の国内製造販売承認を取得



9/19

第2四半期の主なトピックスをご紹介します。

全社のトピックスとしては、株式持ち合い解消の資金を活用し、110億円の自社株買いを実施しました。昨年度も同様に30億円の自社株買いを行っています。

昨今、健康経営が非常に注目を集めていますが、テルモが幹事企業となり、社員の健康増進に取り組む「KENKO企業会」を設立しました。企業からの関心も高く、現在25社まで参加企業が増えてきました。

次に事業に関するトピックスです。

9月18日に「ハートシート」の国内製造販売承認を取得しました。

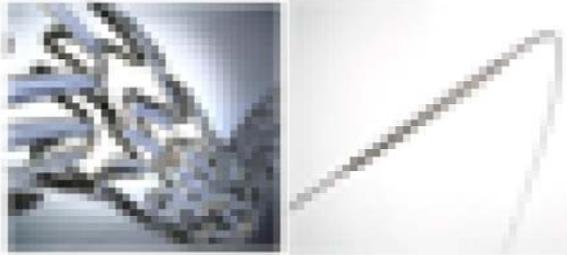
8月10日には、Ultimasterの国内の製造販売承認を取得し、10月1日から販売を開始しました。

米国では、第1四半期に末梢動脈疾患用ステントMisagoがPMA(製造販売承認)を取得しましたが、続いて、カネカ社との共同開発品であるPTAバルーンが承認を取得しました。ペリフェラル関連の製品ラインアップ拡大を進めています。

カテーテルを使用したがん治療の分野では、オランダのベンチャー企業への出資を行いました。

ホスピタルカンパニーでは、皮内投与型デバイスの国内製造販売承認を取得しました。

15年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ	領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES(Ultimaster)	◎◎ ★	日	Q2承認 10-1発売	CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)		日	
	次期血栓吸引 カテーテル		欧・南米・亜		血液	自動製剤化システム	★	日	
ペリ フェラル	ステント(Misago)	★	米	Q1					
	ステント細径化 (Misago)		欧						
	PTAバルーン(膝上)		欧・米	Q2					
	PTAバルーン(膝下)		日						
	塞栓用ビーズ	★	欧	Q1					
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日	Q1	DES「Ultimaster」	PTAバルーン「Metacrosss RX」			
	液体塞栓剤	★	欧	Q1	国内製造販売承認 10月1日発売	カネカ社共同開発品 米国ローンチ			
	プロテクションデバイス	★	欧						

◎ 業績貢献大、★ イノベーション度高



10/19

2015年度の製品パイプラインについては、順調にローンチが進んでおります。

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率(15年度上期)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	228 (-3%)	1,028(+11%)	325 (+3%)	445(+12%)	135(+40%)	123(+13%)	1,255(+8%)
うちカテーテル※	172 (-5%)	811 (+16%)	261 (+5%)	323(+18%)	128(+42%)	99 (+19%)	983 (+11%)
ホスピタル	620 (+3%)	188 (-6%)	48 (-18%)	42 (-5%)	11 (+25%)	87 (-1%)	808 (+1%)
血液システム	56 (-8%)	472 (+4%)	130 (+4%)	233 (-1%)	27 (+37%)	82 (+12%)	528 (+3%)
合計	903 (+1%)	1,688 (+7%)	503 (+1%)	720 (+6%)	173 (+38%)	292 (+8%)	2,592 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	14年度 上期	15年度 上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	339	382	+43	+13%	
販促費	76	81	+5	+7%	
物流費	53	55	+2	+3%	
償却費	119	140	+21	+18%	
その他	176	186	+10	+5%	
一般管理費計	763 (32.8%)	844 (32.6%)	+81	+10%	+3%
研究開発費	136 (5.8%)	159 (6.1%)	+23	+17%	+8%
販管費合計	899 (38.6%)	1,003 (38.7%)	+104	+11%	+4%

()内は対売上高%



四半期の動き

(億円)

	14年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	1,184	1,299	1,263	1,287	1,305
粗利益	623(52.6%)	678(52.2%)	654(51.7%)	690(53.7%)	704(53.9%)
販管費	385(32.5%)	405(31.2%)	424(33.5%)	417(32.5%)	427(32.7%)
開発費	69(5.8%)	74(5.7%)	84(6.7%)	79(6.1%)	80(6.1%)
営業利益	169(14.3%)	199(15.3%)	146(11.5%)	194(15.1%)	197(15.1%)
のれん等償却 除く営業利益	211(17.8%)	245(18.8%)	194(15.3%)	245(19.1%)	248(19.0%)
四半期 US\$	104円	115円	119円	121円	122円
平均レート EUR	138円	143円	134円	134円	136円



14/19

設備投資と研究開発費

(億円)

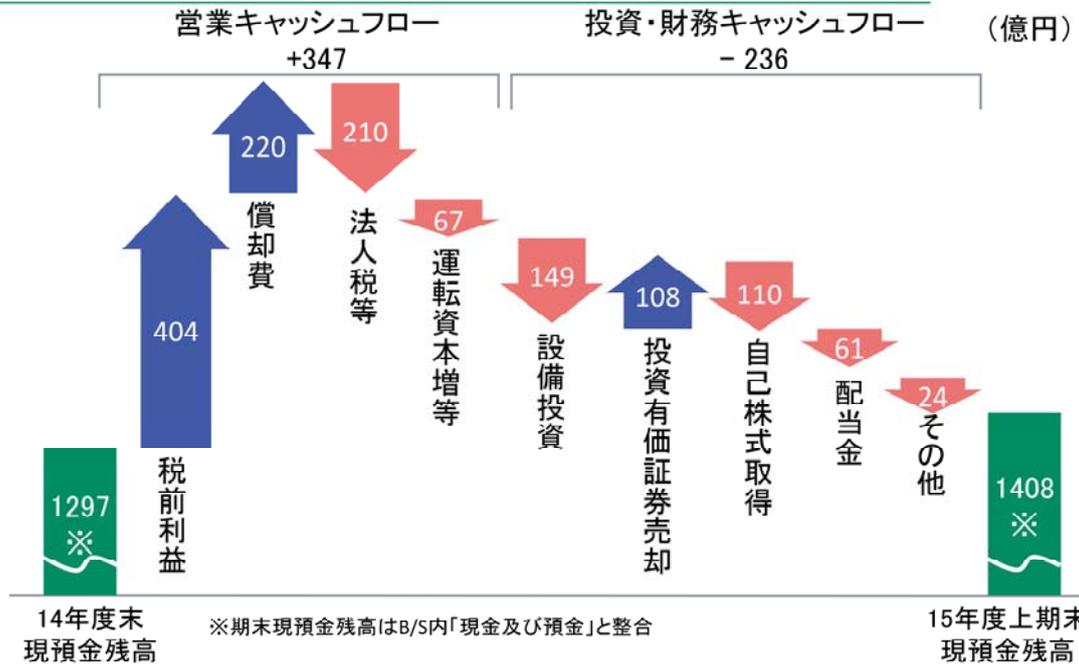
	年度見通し	上期実績	進捗率
設備投資	360	149	41%
償却費※	450	220	49%
研究開発費	350	159	45%

※のれん・無形資産含む。設備投資は取得ベース

<設備投資見通し 420億円から360億円に修正>

- 米国南カリフォルニア開発拠点建設 30億円遅れ
建屋設計変更による遅れ。リースによる研究開発施設確保により開発への遅れはない
- テルモ山口設備投資 マイナス20億円
既存設備を有効活用できる新製品導入を優先

キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	US\$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

- ドルに関し、北米を中心とした売上拡大により売上感応度は高めに推移
ただし、BCT買収後海外生産比率の上昇により営業利益の円安効果は縮小
- 新興国通貨下落による営業利益減をユーロ安効果で相殺

15年度 上期: 為替変動の影響

上期期中平均レート

	14年度	15年度	
US\$	103円	122円 (+ 19円)	18%円安
EUR	139円	135円 (- 4円)	3%円高
人民元	16.6円	19.5円 (+ 3円)	17%円安

(億円)

	売上高	営業利益
US\$	+ 130	- 7 のれん等影響 - 15
EUR	- 12	- 10
人民元	+ 29	+ 10 増売による利益増 + 20 杭州工場、製造原価への影響 - 10
他新興国通貨	+ 3	+ 2
合計	+ 150	- 5

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。